

“スタイリッシュ&チャームングなゴルファー”を目指すアナタへ

2011年7月号 毎月5日発売 6月4日発売 雑誌第7号通巻14号

EVEN

毎月5日
発売!

For Stylish Golf Player
[イーブン] 2011/Vol.33

7 
for tasty life

遂に完成!!
BRIEFING
X
EVEN
別注キャディバッグ
※詳しくはP146へ

選ぶの真実
シャツ
フト

特集
知ってるようで意外と知らない

特集
人気ブランドから高機能モノまで一挙紹介
夏の主役は
やつぱりポロ

小さくても存在感大きいのです
夏ゴルフを出し抜く
腕元のお洒落

“簡単ギア”の実力を検証
イージークラブでスコアアップ!?

定価 720yen



世界のインサイドロープから

文○小山武明 写真○田辺安啓 (JJ)

第14回

『The Open Doctor』 世界最強を決める舞台の コースデザイナー、リース ジョーンズ

幾多の名門コースの改造を手がける
ゴルフコースの名ドクターとは…。

タケ小山 (小山武明)

18年間、アメリカを中心にプロゴルファーとして活躍。帰国後もトーナメントに参戦しつつ、解説やInter FM「GREEN JACKET」(76.1MHz)のDJなども務めている

THE OPEN。それは全英オープンを目指すことは日本のゴルフファンなら誰しも、いや世界のゴルフファンなら誰もが知っている事実。最古のオープン試合なのだから「E.M.」はたつた一つでなくてはならない。今回紹介するこの男は、自らのホームページでも「The Open Doctor」がニックネームと豪語する。ジ・オープン・ドクター？ 全英オープンの医者なのか、特別な開業医なのか？ よく理解できないだろうが、その人の名は、リース・ジョーンズ。ゴルフ界でジョーンズといえば球聖ホビー・ジョーンズ、あるいは泣く子も黙る米国ゴルフ場設計家の大御所ロバート・トレント・ジョーンズである。今回紹介するリース・ジョーンズは、何を隠そうそんな大御所設計家の息子なのだ。ちなみに兄のジョーンズ・ジュニアも存じの方も多しはず。そして今回紹介するオープンとは全英オープンではなく、全米オープンとなるのでご了承を。

今年の全米オープンは、米国名門の一つ、コングレッショナル・カントリークラブ。この開催コースの改造もリースが行ったのである。これまでに彼が手がけたオープン開催コース改造は、七つを数えるのである。バルタスロール、ベスページ・ブラック、ヘイゼルティン、バインハースト、ザ・カントリークラブ、トールバインと米国の名門ばかりを全米オープン開催前に改造を手がけているのだ。そこからついた彼のニックネームが「The Open Doctor」。

彼のバックグラウンドは、米国デザイナーの王道を行くもので、米国名門アイビリーグのエル大&ハーバード大を渡り歩きデザイン科生として2校を卒業。ハーバード大の交友関係も、その後のゴルフコース・デザイン・ビジネスの中で最大の武器となっているといっても過言ではない。コースデザインでは米国の名家であり、父・ロバート・トレント・ジョーンズもアイビリーグの1校であるコーネル大でランドスケープ・アーキテクチャー(造園空間設計)を学んだ。のちに球聖・ホビー・ジョーンズとも出会い、あのマスターズの舞台オーガスタ・ナショナルの改造も1947年&1950年に手がけている。

設計家達には必ず『設計理念』があるが、ジョーンズ一家には先代のロバートから受け継いだモノがある。それが『no risk, no reward』。危険を冒してまでも狙わなければ、ご褒美はいただけない。という理念である。やはりこの一家の理念にはオーガスタ・ナショナルのパー5が基本理念になっていると考えさせるコースデザインが多いのだ。そんな名家の次男坊が今回手がけるコングレッショナルは最終ホールの名物のパー3だったが、危険を…の理念

通り、従来の難関17番を最終ホールへと変更する。パーディーもあればダブル、トリプルボギーもあり得る最終ホールとなる今年の全米オープンは、絶対に見逃せない。

最後にトリビアを。現在クロウズとして改造中の関西の名門・茨木カントリー(西コース)は日本の「The Open Doctor」匠の井上誠一デ



パブリックながら名門として名を馳せる
ベスパページのブラックコースも彼により改良されている

ザインで2グリーン。その改造をリース・ジョーンズ、彼の手に委ねられ1グリーンのコースとして生まれ変わるのだ。過去に、日本オープン、日本女子オープン、アジア・パナソニック・オープンとオープン開催コース。米国だけでなく世界で彼が「The Open Doctor」と認められる日は近いかもしれない。